

研究のポイント

研究主題

自ら課題を設定し、運動の楽しさを味わいながら基礎体力の向上を目指す児童の育成

【R5の研究のポイント】※昨年度の成果と課題から

プロジェクトA

〇体力を4つに分類し、児童に意識させたことで、児童が運動時に体力について考えるようになった。

→学習カードの効果

- ・自分の体の変化について気付いたことを記録
- ・体の動きをどのように身に付けたのか経緯を記録

→授業の工夫

- ・児童が運動について充足感を得ることで体力の高まりを実感できる

プロジェクトB

〇運動を得意とする児童は数値の向上に関心を持ったが、多くは数値に関心はほぼなく、関わりながら運動することに関心を示していた。

→運動時間確保の効果

- ・休み時間で無理なく運動に取り組むことができた。（新たな時間設定の必要なし）
- ・他学年と一緒に運動する様子が多少見られた。

【R6の研究のポイント】※今年度取り組んでいくこと

プロジェクトA

〇体力の向上のためには「体の動きを身に付ける」「体の変化に気付く」ことが必要であり、そのための手立てを示す。

→28の基本的な動きを参考に何をどのように身に付けさせるのか教師の意図を指導案に入れる。

- ・発表領域でどのような体の動きをどのように身に付けさせるのか見せる。（体の動きを身に付ける工夫）

→子どもが体の変化に気付いたときの発話の指標を作成する。

- ・子どもが体力の向上を実感する場面や状況を分析して、数値だけではなく体力の向上を見取るための手立てとなる指標を示す。

プロジェクトB

〇運動種目について他校が参考にできるような内容を提案する。

→個人の記録向上を目指す種目だけでなく、多くの児童がかかわりながら運動に取り組むことのできる種目を開発する。

- ・他校でも負担なく体力向上の取組として取り入れられる運動を提案する。

参考

次年度に向けて

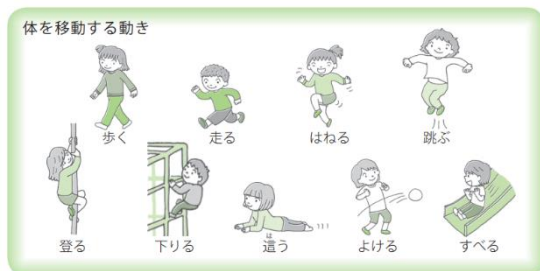
060205 研究推進委員会

【研究成果の方向性】

① 28の基本的な動き（文科省幼児期運動指針ガイドブック）を4つの体力に振り分ける



幼児期に経験する基本的な動きの例



ストーリー

小学生にも身に付けさせたい基本の動きがある。その動きを4つの体力に分類すると以下にあたる。巧みに体を動かす動きに偏っているように見えるが、実際は複合的な力が必要であり、複数の力を組み合わせることで動きを身に付けることができる。つまり、体力を高めるとは1つの動きを高めればよいということではない。

力強く体を動かす力	巧みに体を動かす力	体の動きを持続させる力	体を柔らかく動かす力
運ぶ 掘る 押す 引く 走る こぐ 登る	寝ころぶ 転がす 起きる 蹴る 回る 積む 転がる はねる 渡る 跳ぶ 投げる 下りる 捕る よける	立つ 座る ぶら下がる 持つ 歩く すべる	這う 例えば、「座るためには足首や膝を柔らかく動かす必要もある」ということである。